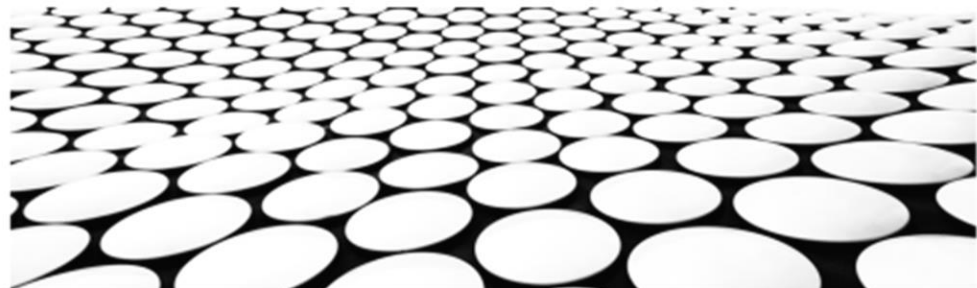


まちの減災ナース育成研修を通じた 地区防災福祉コミュニティ構築モデルの開発

牛尾裕子¹⁾³⁾ 齋藤美矢子¹⁾³⁾ 網木政江¹⁾³⁾ 村上祐里香¹⁾³⁾ 緒方彩乃¹⁾³⁾
鶴田良介¹⁾³⁾ 榎原弘之²⁾³⁾

- 1) 山口大学大学院医学系研究科 2) 山口大学大学院創成科学研究科
3) 山口大学地域レジリエンス研究センター 防災・減災グループ



地区防災福祉コミュニティとは

同一のコミュニティに展開される防災対策と福祉対策の
一体的取り組みを目指す、実践的、戦略的概念(峯本,2013)

災害巨大化と地域防災力低下による課題と少子高齢化で生じてきた地域
課題をつながりのある現象として捉え、新しいコミュニティ形成によっ
て克服しようとする目標概念(山下,2007)

様々な甚大災害の経験を経て、2013（平成25）年に災害対策基本
法が改正され創設された「地区防災計画制度」が目指すコ
ミュニティに同じ。

防災福祉コミュニティ先進事例

- ・市内全域で防災福祉コミュニティを結成し、地区ごとに要援護者避難支援や
防災教育に取り組む（兵庫県神戸市）
- ・地元町内会と福祉グループ連携による災害発生時の要援護者避難支援対策
（長野県松本市）
- ・企業や消防OBを活用した人材育成（神奈川県横須賀市）

関係者の図式 CFIR「介入の特性」

*プロジェクトチームメンバー



3地区の範囲とその特徴

< B地区の特徴 >

人口10,686人 (5,107世帯)
 高齢化率30.8%
 F川沿岸部で浸水想定区域、土砂災害警戒区域あり。
 昭和17年に水害の経験あり。

< D地区の特徴 >

人口7,653人 (4,084世帯)
 高齢化率27.2%
 F川沿岸部で浸水想定区域、土砂災害警戒区域あり。

< C地区の特徴 >

人口3,742人 (2,089世帯)
 高齢化率37.3%
 浸水想定区域あるが、災害に慣れていない。
 地区内に民家や旧店舗を活用したサロンが多い。(日頃から住民がつながれる場になっている)

